101　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　塚野 萌恵

私は震災の時青森県にいました。ですが東北なので揺れも激しかったです。学校から外に出てみると雪が沢山！寒い中、母にむかえに来てもらい、寒い中、電気がとまっている中で次の日を迎えました。次の日電気は、戻り、よかったです。

震災で特にこまった事は、やはり電気です。寒さが激しい青森では、特にこまりました。でも、ガス、水道が大丈夫だったので、湯たんぽを使い、寒さを防げました。が、福島の方は、ガスや水道もとまっている所もあるとおばあちゃんに聞き、大変だったなと思いました。

今、4年近くなり、元に戻りつつあります。その中で何よりも最優先するのは、市民、県民みんなが笑顔であり、一人ひとりが輝やける！事だと思います。それが今、福島での最優先する事だと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　成田朱里

わたしは、震災の時は福島にはいませんでした。しかし、わたしの住んでいた県もゆれが大きくてとてもこわかったです。テレビを観るとおばあちゃんやいとこが住んでいる福島県が地震のため事故が起きたため多くの人々が被害を受けたというニュースが数多くの番組で流れてました。このときこのせかいがいなくなる恐ろしさが身にしみました。

福島県は今後ふっこうがとてもすすんでいてだんだんおちついてきていると思います。私じしんもボランティアやぼきんをしていいっこうがより進められるようがんばっていきたいと思います。いつかはもとどおりの県になってほしいです。

(20文字 × 20行)

郡山市立大島小学校　12歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　後藤　恵

　二〇一一年三月十一日、私はまだ二年生でした。先生が教室にいない中で帰りの会をやっていた時に地震が起きました。みんな机の下に隠れていました。その後先生が戻ってきて揺れが弱くなった時に校庭に避難しました。外は、とても寒くて、怖くて泣いている人もいました。親が来た人から帰っといって私も姉と車に乗りました。2時間など経って家に帰りました。

　障子にテレビと机がささっていて障子が傷つき、水は少しも出ませんでした。お風呂も入れなかったので、おばあちゃん家に姉と私は避難しました。おばあちゃん家は水も出ていて安全に暮らせました。でも郡山にいる父と母を置いて米沢にいるのは悲しかったです。テレビを見て津波の様子がなんとも[illegible]て福島県では、放射線が危険なのに郡山で働いている父と母はすごいなと思いました。

　これからの福島は人々が協力し合っていき笑顔がたくさん見れる福島でいてほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 卯木 向

震災前の福島へと復活させるために

よく、スーパーマーケットに行くと、さまざまな商品に放射線検査に合格したというシールが張られている。大震災からもうすぐ四年経とうとしているのに、今だによく目にする。

それは何故か。地場産業に対する不安や心配がまだ残っているからだ。逆に言えば、そのシールが無いと決して商品を買う事ができないのだ。

主な産業が農業である福島にとって今だに大きな死活問題なのだ。早く震災前の農産業で自慢できるような元の福島へ戻るため、まず自分たちが出来る事は、地場野菜を食べ、健康に問題が無い事を率先的にアピールし、それを他県へ発信していく事だろう。そうして元の福島を取り戻し、「原発」という言葉が気にならないような生活を送りたい。その生活を続けるのは困難だがそれを続けていくことこそが自分たちの使命だと思う。

(20文字 X 20行)

105　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　浅和　真由子

２０１１年３月１１日、教室で下校の準備をしている時、突然今まで経験をしたことがないような大きなゆれが来ました。私はすぐ机の下にかくれて紅白ぼうしをかぶりました。するとドンという音と共に本だなにある本が全て落ちてきました。一瞬にしていつもの風景が変わっていって怖かったです。

その日の夜は水が出なくなり家にあった水でカップラーメンを食べました。品数の少ない夕食だったけれど家族みんなが無事だったのでほっとしながら食べました。次の日から給水所に水をくみにいきました。親切な人が運ぶのを手伝ってくれてありがたかったです。

３年経った今では各地で除染も進んで、放射線を少しでも減らそうとしています。大変な時に助けてもらえた時のうれしい気持ちを忘れずに、私も地域の役に立てることを考えていきたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　匿名希望

しんさい日のこと
↓
そのあとのようす
↓
のぞみ

ぼくは震災の日は学校にいて帰りの会中でしたじしんのときは2～3年生でぜんぜん覚えていないのですがこわかったのだけはおぼえているのでいました。

その後はお母さんとかがむかえにきてそれから家にむかうとガラスとががいっぱいちらかっていました。でんきもきえて爪7とてもこわかったです。

のぞみはじしんがきてもこわれない家とかかぐとかがほしいです。でんきもきえないでほしいでんきがきえると信号きがきえてじこがおこりやすくなってしまうのででんきのていでんはいやです。

(20文字 × 20行)

郡山市立大島小学校　11歳

107「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 橋本隆祐

ぼくはそのときに、学校にいました。学校から帰るとちゅう地面とかにひびなどが入ってました。家に帰ったら二階は紙などがちらばってすごいことになってました。お皿のよさらとかもわれてました。2かいの台所はおさらとかがわれていたのでそこは、スリッパで歩きました。あと水が出ませんでした。ごはんがなかったので、コンビニで買ってそれを食べました。

もっと豊かな福島にしてほしいです。

（20文字 × 20行）

　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　郡司優人

　3月11日、東日本大しんさいがありました。東日本大しんさいでは、多くの人が、家を失なったり亡くなったりしました。ぼくは3月11日、学校に行きたくなかったので、保けん室にいました。5校じ目に教室にいって、帰りの会をしているときに、「ガタガタ、ガタ」と、学校全体がゆれました。その時に、いきなり教室がゆれてびっくりしました。その時は、ただの、たまにおこるしん度3〜5ほどの短いゆれの地しんかなと思っていたら、ものすごく長いゆれでした。テレビで地しんのしん度を見ていたらしん度7でした。しん度7の地しんなんかめったにおこらないので、何で急にきたのかとおもいました。家に帰ったら冷ぞう庫がたおれかけていたのでその時に家じゃなくて、学校にいてよかったと思いました。3月11日、から、何日間か学校ががますになりました。その分勉強がおくれました。

（20文字 × 20行）

109 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　熊田塊士

3月11日　ごご2時46分

ぼくは、学校のすうもんのところにいて帰ろうとしたらいきなりじしんがおきて先生がきてるだうちょうしつにもどりました。その数分後は校庭にでて母さんがきて万京をのせてかえりました。家の中はぐちゃぐちゃでした。片づけに3日かかりました。テレビを見るとじしんのじょうほうなどがいっぱいやっていました。海に近いところは津波の被たいしました。じしんのせいでほうしゃせんがでてきました。ぼくの家の近の人がほかの県へいってしまいました。

復興への想いは家がない人は建てたいと思っているし、ふるさとにもどりたい人はたくさんいます。今ふつうにくらせるのは当たり前です。だから早くまえの生活にもどってほしいです。

110　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 谷口博香

2011年3月11日、ぼくの住む福島県を大地震がおそいました。その時、ぼくは1年生で家についたころでした。家には、お兄ちゃんがいたのですがねていたので家には入れよせんでした。なので外でお母さんが帰ってくるのを待っていました。すると、「ガタガタガタ」と東日本大震災が日本の地いきをおそいました。マンションの近くにいたのできけんを感じたのでちゅう車場に行きました。ぼくはその怖さに泣いてしまいました。この大地震ははじめて体験をあじわったからです。お兄ちゃんも地震に気付き外に逃げたしいろんな人たちが集まっている所にひなんしました。ゆれは少しずつおさまってきていました。家は、くずれなずでなんとか無事でした。2015年に入りました。少し地震もありますがたゆまず日本全国でささえながら協力しあいながら生きていく、そんな未来が実現してほしいです。

(20文字 × 20行)

141　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 石塚章朋

あの人生最悪の日。多くのとうとい命が失なわれた日。僕は帰たくとちゅうで、じしんがおきたので、僕はびっくりしてようちえんの屋根つきのちゅう車場にかくれた。

あの日の事は今もおぼえている。あんな悲げきにはもうあいたくない。4年たった今もこの福島の中でもまだ復興がすすまず家へ帰れない人もいる。そういう人の事を考えると東日本大じんさいがおきてしまった事、復興がおくれている事がかなしく感じる。福島第一げんぱつのつなみでの破損で、福島のイメージがダウンしてしまった事が一番残念だ。福島が僕は大好きなので、残念だった。しんさいで初めは心のキズをうけたが、4年たった今はもう、いやされたがまだかなしみはのこっている。じしんはしょうがないが復興は力を合わせてできる事なので、こんな僕でも力になればいいと今も思っている。

僕はもうだいじょうぶだがまだ、家に帰れない人がいるので、帰れるようになればいい。

(20文字 × 20行)

112「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 鈴木のあ

「東日本大震の体験と復興への想い」

　3月11日。この日、学校から帰って、家の
コタツで、テレビを観てた時、グラグラと家
が、ゆれ。携帯の緊急速報の音にビックリ
してるあいだに、今まで体験した事のない大
きな、ゆれが長く続き、食器棚が倒れタンス
も倒れテレビも倒れそうになり、すごく怖く
て、怖くてコタツの中にかくれたが、大きな
地震なのですぐに、家から飛び出しました。
すると、空はまっ暗になり急に、雪が降って
きました。怖かったです。電話もつながらず
パニックでした。そのときニュースで福島第
一原子力発電所の爆発放射線がもれて大事故
になってる事を知るその後宮城県沖に大きな
津波がきたとニュースで観て何百人の人が流
され家も流され私はすごくショックをうけま
した。私達もその日は、車の中で寝ました。
こんなに地震と津波の怖さを知りました。
まだ家に帰えれない人達が早く家族みんなで
暮らせる事を心から願っています。

（20文字 × 20行）

113 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名　石橋　美里

　今でも忘れない３月１１日。私はその時、先輩たちの卒業式を終えて３つ下の弟と一緒に自宅にいました。母は妹を迎えるために学校に行っていました。もの凄い音がして、家のガラスコップが割れ、蔵の外壁や自宅の瓦が落ちました。震災直後にも関わらず、翌日、私の誕生日を家族が祝ってくれました。そしてこの日に原発が爆発しました。

　３月１８日、私たち家族は、群馬県片品村に避難しました。初めてで何もわからない私たちを、片品村の皆さんは、以前からそこに暮らしていたように明るく受け入れてくれました。１年と９日間の村の生活でした。

　南相馬に戻ってきましたが、なかなか進まない復興にいらだちを感じます。「復興、復興」といいますが、３年前のように戻るのは難しいと思います。放射能の不安は残ったままです。情報は、隠さずに伝えて欲しい。私たちの未来は、必ず幸せな未来になって欲しい。そう思います。

（20 文字 × 20 行）

いわき市立小名浜第三小学校　11 歳

114　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 国分 望愛

　しんさいの時は私が1年生の時で下校中でした。ブロックのへいが道をふさぐほどに全てたおれ、足がはさまれて動けない状態の人もいました。高校生たちが助けてくれて、無事に家に帰ることができました。
家に着くと、たなの上のものが全てゆかにおち、かべには所々にひびが入っていました。水を飲もうとしても、水は出ず、おふろに入ることも出来ませんでした。なので、わざわざ遠い所へ水をくみに行きその水でお米をたくさんたき塩むすびを作り1日1個しか食べられないほど大変な思いをしたので、早くもとの生活にもどりたいと思いました。
　それを思うと今は、水も電気も不自由なく使えているので、ぜいたくなんだなと思います。まだ自分の家に帰れない人たちも多くおり、そういった人たちの事を考えると、水、電気を大切に使い、食べ物もそまつにしないようにしていきます。

(20文字 × 20行)

いわき市立小名浜第三小学校　11 歳

115 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 安藤 茉白

　私は、この時まだ知識をあまり持っていない、4年生だった。だから、ブロック塀がくずれるなんて、知らなかった。でもそれは私たちの目の前で起きてしまった。そして、つなみがあったこと、原発がばく発したことを知らされた。それがきっかけで、私は一時期いとこのいる所へ転校した。そこではたくさんの体験をした。

　私は、いろいろ体験して楽しかったのですが、亡くなった方や行方不明の方のために、自分で出来ることをして行きたい。

(20 文字 × 20 行)

116.「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　吉田唯

わたしは、3月11日の東日本大震災の体験談と復こうへの想いを書きます。

まず、体験を書きます。東日本大震災の時はまだほいく園のときでした。わたしはすみよしほいく園にいて、震災が来て、小名浜第三小学ににげました。でもお母さんは、早くむかえに来てくれたのですぐにお家に帰りました。でも家の中は、タンスがたおれたりしょっきがわれていたりしていたのであぶないじょうたいだったので おばあちゃんの家ににげました。でもおばあちゃん家は中の作だったので東京の横浜ににげました。

次は、復こうへの想いです。わたしは、震災があってとてもざんねんなことが1つありました。福島のもの が食べられなくなったことです。なぜなら福島の物が前は食べられていたのにたべれないからです。わたしの復こうへの想いは、家とかがつなみでながされた町を一年でも早く元気で明るい町にしてほしいことです。

(20文字 × 20行)

伊達市立梁川小学校　12歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　佐藤　紀奈里

東日本大震災の体験談と復興への想い

佐藤　紀奈里

大きな揺れが起きた。その揺れは突然だった。私が生きてきた中でこんなに怖い体験をしたのは、初めてでした。あの大きな揺れ、たくさんの物の落下、先生の必死の呼びかけ、皆の泣いている声。恐怖しかありませんでした。皆が必死になって机の下にもぐっている時、少しだけ揺れがおさまりました。その時先生の誘導のもと無事に校庭へ避難する事が出来ました。私は家族に無事、会えるか不安でいっぱいでした。その不安の中、お父さんが迎えに来てくれて…安心し涙がとまりませんでした。家に着き家族に会えてとても嬉しかったです。

今後の未来は平和で豊かな、福島、いや日本全国であるということを願っています。

（20文字×20行）

　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　赤塚陽花

私は、東日本大震災の時まだようち園の年長で、おばあちゃんの家にいました。そして私が大好きなアイスクリームをたべている時急にけいほうがなり、なにがおこったのだろうと思いました。そして大きなじしんがおきました。私は、ゆれたとき、おばあちゃんが
「外に出て」
と言ったので私はまよわず外にでました。その時、弟はなんだかふるえているように見えました。そして外からみる家はゆれていたのです。私は当時年長だったので家がうごくはずないと思っていました。とてもおどろきました。ゆれがおさまり家に入るとかざってあったガラスの置き物はわれていました。そのあと、テレビを見るとさっきまで見ていた番組は終わりどのチャンネルもじしんのニュースばかりで、その時に初めて知ったのが、「つなみ」です。その時、たった数分で多くの人の命がなくなってしまうなんて、じしんなんておこらない世界になればいいのになぁと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　遠藤 真之介

　東日本大震災の時、ぼくは保育園にいて部屋でねていたので、その時のきょうふを味わらなくてよかったです。その時は、みんなで外にでて大きな青いビニールシートをかぶりました。そして家に帰ったときは、ガラスや皿やビンがたくさんわれていたので、びっくりしました。なのでお兄ちゃんと、車の中でおせんべいをたべていました。ほとんど車にいたので、とってもひまでした。

　ぼくは、とっても幸せだと思いました。なぜかというと、他の県では、つなみでたくさんの人たちがなくなってしまったので、それとくらべるとぼくたちのほうが幸せだなあと思いました。ぼくは、もう人は亡くなってはほしくないので、このふつうの生活を守りたいです。

　後、人が亡くなるということをなくして、みんなで協力して生活して楽しくすごしていきたいです。なのでつなみやじしんやかみなりとかがこないようにねがいたいです。

（20文字 × 20行）

120「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 加藤 陽翔

ぼくは、東日本大震災があったときは、ようち園から帰えってきたばかりでした。
そのときは、じしんはどういうものか分かりませんでしたので、サイレンがテレビでなったときは、「これはなんだろう」とふしぎに思いました。そしたら十秒くらいたったあとにじしんがきてなきそうになりました。それにテレビはすぐがめんがかわりつなみの流がれているところがでたのでとてもこわくなったし次の日は、よしんがきたりしてとてもこわかったです。何日かたったころには、ほうしゃせんなどいろいろじしんについてニュースしかながれなかったしほうしゃせんで外にはでれないのですごくたいくつでした。あとつなみでは、多くの人がなくなったりゆくえ不明になったりして、とてもかなしいしつなみがながれたところには、いえがあとかたもなくなくなっているところもあったので、とてもじしんやつなみで多くの人がなくなるというおそろしいと思いました。

（20文字 × 20行）

郡山市立小山田小学校 10歳
氏名 佐藤朱音

これから、東日本大しん災の体験談とふっこうへの想いを書きます。

わたしは、東日本大しん災がおこったときは、ようち園にいました。そのときに、みんながようち園のつくえの下にかくれていました。でもわたしは、何がおきているのか分からなかったので、そのまますわっていました。そうしたらえみさんが、

「おかわちゃんじしん」

と、声をかけてくれました。わたしは、じっとすわって、体がゆれて、じしんがおきていることに気がつきました。なので、つくえの下にもぐりました。じしんがおきていたので、早めにバスで帰りました。そして、家についてから、お母さんはとても心配していました。そのとき、おばあちゃんもいたので、お母さんが、じしんがおきたときのじょうきょうを話してくれました。お姉ちゃんは、テーブルの下にもぐり、テレビがおちてきても、テーブルで助かって、お母さんは、おばあちゃん

をまもっていました。東日本大しんさいで、息をひきとった方もたくさんいると思うので、もしその時にもどれたら、たすけてあげたいです。

あのとき、もしもえみさんがあの一言をわたしに言ってくれていなかったら、もうここにはいなかったのかもしれません。なので、えみさんには、かんしゃをしなければならないなと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 匿名希望

私は東日本大震災時に家にいました。本来は卒業式で学校にいるはずなのに風邪を引いてしまったからです。家にいたのは、祖母と父と私の3人でした。祖母は部屋でテレビをみていました。父は外で木を切っていて、私も部屋で休んでいたので、同じ家にいると言っても、居場所がみんなバラバラでした。地震警報に一番初めに気付いたのは、部屋にいた祖母でした。私は、気付かなかったので声をかけてくれた祖母には、感謝しても仕切れません。その後、外にいた父も戻って来てくれたので怖かった気持ちも少しづつ心強いと言う気持ちになれました。地震の後は、水が出なくなったり、食べ物にも困りましたが、姉や、弟、家族全員で協力し、乗り切ることができました。その際、近住の方々と、お互い助け合いながら生活したので、地域の方々の優しさにも触れることが出来、良い経験でもありました。あれから数年ですがまだ、家に帰れない人もいるので助けたい。

（20文字 × 20行）

いわき市立永崎小学校　12 歳

123「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 佐々木海紀

ぼくは、東日本大震災を体験して本当の地震のこわさを知りました。実は、小さいころ正直地震が好きでした。グラグラっとなってちょっと面白かったです。でも、東日本大震災の時は、すごくこわくて不安でいっぱいでした。だけど、家族が無事と知った時は本当に嬉しかったです。一応ほっとしました。でも、原発のえいきょうで海に入れなくなってしまってとても残念でした。今でも、また海に原発のえいきょうがあるので　元の海にもどしてほしいです。そしてまた、海に入りたいです。これが、ぼくの一番の想いです。後は、東日本大震災のえいきょうでこわれた場所が、たくさんあると思うので、そこを直して大震災が起きたと思えないような、元の日本にもどしてほしいです。

（20 文字 × 20 行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　佐藤陸武

「東日本大震災の体験談と復興への想い」

ぼくは、二〇一一年の三月十一日の午後二時四十六分ごろに、東日本大震災を経験しました。ぼくは、三月十一日の午後は、ちょうど学校が終わって、先生といて、掃除をやっていました。そして、午後の二時四十六分になって、最初は、小さいゆれだったので、大丈夫だろうと思っていましたが、だんだんゆれが大きくなってきて、天井の電気がすごくゆれていて、落ちてくるんじゃないかと思っていました。ぼくはその時、命のきけん[illegible]どうようしたけど、みんながもぐっていて、[illegible]机の下にもぐれないじょうたいでした。[illegible]のような体験をしました。その日から三年たった今、少しずつ、津波で流されてしまった建物も、回復してきていて、大きな[illegible]。今では、住みよくなりました。

今後も、津波で流された建物も、完全に回復して、元の生活にもどれたらいいと思います。

125「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　遠藤拓磨

ぼくは、東日本大震災を受けて最初は普通の地震だて思ったけど、何日も家に帰れなかったので大人の人に聞いてみたら津波がきて家に帰れないんだよっていわれました。でもそのころはまだぼくは二年生だったのでそれなに家に帰りたいてはあまり思わなかったです。むしろ避難生活の方が良かったです。食べ物は支給された物なでしかなかったのであまりおいしい物はなかったです。放射能のことは全然分からなくてとにかく外にでたり窓をあけちゃだめっていわれました。外でも遊べなかったので暇でした。小学校は使えなくなってしまったので、別の小学校に一時的に通ってました。今はほぼ、地震前の状況にもどりました。今後は地震がおきたら高いところににげればいいと思います。

いわき市立永崎小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名　芳賀 柳多

　東日本大震災がおきた日、ぼくは、1年生
でした。ぼく学童に行っていたので大丈夫でし
た。それでその日も学童にいました。みんなも
宿題をしていました。ぼく宿題の問題のま
ちがいにきづいたので直そうとしたしゅ　ん
んに地震がおきたので、ぼくがゆれて書きづ
らいと思ってみんなが怖がっていることっても
ゆれが大きくなりました。しかも学童のタン
スの物がおちたりしていてこわくもなりました。
このまま学童にひなんしたおかげでたすか
りました。その日お母さんがむかえにきたので
みんなびっくりしていました。しかも福島第
一原発がばく発してしまい放しゃせいぶっし
つが大量にでたせいで、外で遊んではだめと
かいわれました。なのでもやくその問題をど
うにかしてほしいです。今はもう外でも遊ん
でいますがまだ避難しなければいけない人がいっぱい
いるので早く避難している人が家に帰って
ほしいと思います。

いわき市立永崎小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　泉谷朋輝

東日本大震災について

三月十一日、東日本大震災は起こりました。あれから四年たちましたが、ぼくはこの四年間、あの辛い出来事を忘れようとしてきました。だんだん忘れてきていましたが、この作文を書くことで、その辛い出来事を思い出す事になりました。

地震は、とても大きくて、テレビなどがゆれていました。そして家の中は危ないので、真冬の公園へ逃げました。夜になると、雪が降ってきてとても寒かったです。でも何よりも辛かったのは、度々起こる余震でした。精神的にもとても辛かったです。

今、震災から四年たちましたが、まだ復興できていない所があります。だから、ぼくはできるだけ早く復興を願っています。放射能が無くて自分の家があって、食べ物、水、電気があって、家族と生活出来ることが復興だと思います。全ての人が元通りになるように願っています。

（20 文字 × 20 行）

緑川　武大　いわき市立永崎小学校　12歳

(20文字×20行)

東日本大震災の体験談

緑川　武大

ぼくは東日本大震災がおきた時は、まだ二年生でした。その時ぼくは学童にいて遊んでいました。遊んでいると、大きなゆれが来たので、机の下にかくれました。周りでは物がガシャンガシャンと大きな音を立てて、ゆかに落ちていました。

その後、学校の先生と学童のみんなで高い場所に避難しました。その後お父さんが車でむかえに来たので、家までつれてってもらいました。家についたらテレビをつけました。テレビでは津波のことや、地震のことがやっていました。

その何日か後に、家族みんなで沿岸部にある実家を見に行きました。そこには、前あった実家とは思えない家がありました。

その後、いろんなニュースを見て、ぼくは改めて「自然災害はこんなにこわいんだな。」と思いました。

いわき市立永崎小学校　11 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名　鵜沼大留

ぼくは、東日本大震災を体験して思ったこ
とは、地震で物がたくさんたおれてしまったせ
にすれてまそな、だんとはかわこれつやと、
思いました。つなみで、にげおくれた人は、
ぼくも何人かきいて、早く早くと思いおて
くあせってしまいました。でもつなみは、早くて
何人かのみこまれていました。ぶつこ、つにな
けて、げんぱつやつなみのでせと抜かつくの
てほしいです。あとじしんがおきてほしくな
いのじしんがおきたつなでに大きなつまで、か
つていろいきものもたなけてほしいです。
あと地震がおきたりょうぶでじかんほしいです。

いわき市立永崎小学校

130「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　松本[illegible]

　ぼくが小学校７年生の時、学校から帰宅後小学校の校庭に遊びに行き、すぐ地震が来ました。祖母はすぐぼくを呼びに来てくれました。津波の情報が入ったあと、となりの家の人が祖母とぼくと猫と犬を車に乗せて、高台に連れて行ってくれました。ぼくは地震が来たことにびっくりしたけどなんて地震起るんだろうと疑問に思いました。その後すぐ津波が来たことを知りました。津波はぼくの育った家とぼくのゲームとぼくの思い出を流してしまいました。

　ぼくは将来、地震にも津波にも負けない家を建てる大工さんになりたいと思っています。そして、ぼくを守ってくれた祖父や祖母たちに恩返ししたいと思っています。

いわき市立永崎小学校　11歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名　斎藤貴皇

　震災は、いつくるか、どこにくるか、どの
くらいの大きさなのか、それは、まだわ
かりません。だから、いつ震災がきてもいい
ように、いろんなところでひなんくんれんを
してください。ぼくたちも、学校が終わり、
図書でみんなと宿題やっているときに、とつ
ぜん、ゆれはきました。みんなは、いっせい
に、机の下にもぐりました。そして、ゆれが
おさまったら、ひなんくんれんどおりひなん
しました。おかげで、いまの自分がいると思
います。なので、ひなんくんれんをしてくだ
さい、その努力は、自分を守るためになるの
でちゃんと、ひなんくんれんをしてください。

氏名 佐河桃佳

私が東日本大震災を体験したのは私が小学2年生の時でした。家には帰ってきていたので家族もいっしょでした。地震や津波などを自分で体験したのは初めてだったのでとても怖かったことを今でも覚えています。

それでも今、こうして元気に生活ができているのはたくさんの方が支援してくださったからだと思います。学校では、ノートやえんぴつ、消しゴムなどの文ぼうぐやメッセージカード、そしてたくさんの人が来てくださいました。私は、こうやって自分たちのために物を送ってくれたり人が来てくだされることがとてもうれしかったです。

でも、今後、こういった震災は起きない方が絶対にいいし、起こったとき津波が町にこないように大きなていぼうを作ったり、高台をたくさん作ることが必要だと改めて思いました。

(20字 × 20行)

133 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 鈴木望美

東日本大震災から3年ぐらいたちましたが私は東日本大震災の思い出はまだ、忘れていません。

3年前の2011年3月11日、午後2時46分に震度6弱の地震が起こりました。私達は近くにある、江名中学校にひなんしました。午後3時25分ぐらいに津波が来ました。江名中学校は坂があるので大丈夫でしたが、坂の下は、津波で車や家の物が流れていきました。

3月11日がすぎたころ、私達はひさしぶりに家に来ました。来たら一階の家具がなくなってしまいました。でも二階は津波が来ていないので良かったです。

私の家は、震災の約1年5ケ月でもとにもどりましたが、3年ぐらいたってても仮設住たくに住んでいる人がたくさんいます。私が思っていることは、家にもどれない人や食料がない人に人々がたくさんぼ金したのでぼ金を分けて使い前の生活にもどってほしいです。

(20文字 × 20行)

134「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　日下七海

「東日本大震災」と聞くだけでも思い出したくない出来事ですが、この震災で悲しみだけではなく、学んだこともありました。

自分かってな人もいましたが、たくさんの助け合いをする人たちがいました。知らない人どうしなのに、声をかけ合って、手を差しのべる姿を見ました。

震災で、水道が出なくなり、水くみにならぶ日々が1ヶ月以上続きました。それまでは当たり前のように使っていた水道だったので水のありがたさ・大切さに気づかされました

すべてのことに当たり前なのではなく、使えることに感謝をすること、むだ使いをしないこと、命の大切さ、友達と助け合うことが今の私の基本となっています。

（20文字 × 20行）

135 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　大橋麗

私が東日本大震災を体験したのはまだ小学2年生の時でした。実際に地震が起きた時は、友達と楽しく歩いていた学校の帰り道でした。初めは余震だと思っていた私は、すぐ収まると思っていたのでそこまで気にはしていませんでした。しかし、揺れは次第に強くなっていき、私達はとても立っていることが難しくなっていきました。当時はとてもおそろしくて友達と地面にすわりこみ泣きわめいた記憶が今でも頭に残っています。地震の影響で私達の学校は津波の被害にもあいました。それでも決してあきらめたりしない地元の人などを見て勇気づけられたりもしました。そのおかげか、私達の学校は約1年で元の姿に戻ることができました。

たくさんの人の思いがあったからこそ今、私はここにいられると思っています。まだ、全部が元に戻っているわけではないけれど、少しずつ復興していけるといいなと思っています。

(20文字×20行)

いわき市立永崎小学校　11 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名 遠藤千里

　私は東日本大震災がおきた時友達の家の前にいました。理由は、友達といっしょに塾に行くからです。そして、地震がおきてると友達が出てきて、私と友達で公園に行きました。そこには、たくさんの人がいてその中にお姉ちゃんがいたのでお姉ちゃんと行動することにして友達は家族と、私はお姉ちゃんと行動することにしました。お姉ちゃんの友達の車で集合場所に行くと家族が全員いたのでほっとしました。何日かたった日に、ひさしぶりに家に帰ると畑はめちゃくちゃ、家の中は物がたおれていて、家の裏の道路はひびができていてこわかったです。

　こわれた道や畑などが直ってない所は直ってきれいに直り、震災前のようにきれいな福島にもどってほしいです。そして、震災のような事を二度と起きない事を願いたいです。

（20 文字 × 20 行）

137

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 蛭田聖羅

私は、「東日本大震災」という大きな地震を経験をしてとてもこわい思いをしました。しばらくの間は、家の中にいるのが少しこわかったので、車の中にいました。「電気」、「水」がない生活はとてもつらかったです。そして、学校は、1階が水につかってしまったし、学校へ行く道もなくなってしまったので、1年間ちがう学校に通っていました。でも今は、学校もきれいになって、橋や道路もきれいになっていて、ふつうに学校に通えています。もうこんな大きな地震は、起きないでほしいです。今、ふつうに学校に通えているのは、支援をしてくれたみなさんのおかげだと思います。

（20 文字 × 20 行）

私は東日本大震災を経験しました。そして津波も経験しました。私はその時、友達と遊ぶ約束をしていてその準備をしていました。すると急にゆれはじめてたなの上に置いてあったコップや電子レンジが落ちて壊れてしまっておじいちゃんの足にしがみついて怖いよと言っていました。そしてまもなく津波がくるころ私ら家族は自分の家の山に登って津波を見ていました。すごく大きい波で、おさまると、遠くから全体血だらけの人が出て来て近所の人が助けているのが見えて血だらけでも助かってよかったなと思いました。

私の復興への想いは、死んじゃった人もいるけど、私が見た血だらけの人を助けていた人のように助けあってささえあって笑顔で笑いがうまれればすこしは勇気がでると思います。

「東日本大震災…」[illegible]

匿名希望

ぼくは、震災が起きた時、家の近くの神社に、兄と兄の友達と遊んでいました。そして急に、大きなゆれがきたので、三人で、ぼくの家へ急いでむかいました。
そのあと、大津波が家の前までおしよせましたが、ぼく家に、破害は、ありませんでした。兄の友達は家へ帰える事ができず一晩ぼくの家ですごしました。

なので、今後、こういう自然災害が起きた時は、地域で助けあうことと、前向きに生きる事を大切にしていく事が必要だと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募作品　氏名　匿名希望

東日本大震災があったころぼくは2年生でした。その日は友達と遊ぶ約束をしていて家で待っていました。そしたら地震が来ました。ぼくは、地震が初めてだったので、友達がためこせを送り来るのだと思っていました。でも家族に言われてテレビをつけると津波がくると言っていて洋向台に住んでいたぼくは、津波の心配はなかったのですが、友達は水清に住んでいたので、やばいと思いずっとテレビを見ていました。その日からは普通に過ごしていたのですが、急に家に人が来て水が止まりますよと言われたのでぼくたちは、びっくりしてしまいました。それから家にある物に水を入れれが止まるまえに水を補給しました。そして水が止まってからは、お皿にラップ付けてご飯を食べたり毎日水をもらいに行っていました。もうあんなことはしたくないので地震は起きてほしくありません。

「東日本大震災の体験談」応募原稿　氏名 箱崎竜輝

箱崎　竜輝　いわき市立永崎小学校　12 歳

ぼくは、あの時下校とちゅうで七人が地面がゆれ、まわりの家のかわらやでんきゅうがわれてとびちったりおちたりしていたので、走って家にかえりました。かえったらみんな家から外に出ていて、それから公園に行ったらなみで車がういているとさけんでびっくりしました。それから家におとうさんがきてみんなでケイタイのテレビでつなみのえいぞうをみていました。そしてひなんをはじめたらしんせきのおじさんがいないときいてがっくりしました。そしてちょっとしてからしんせきのおじいさんが、しんじゃったときいてざんねんな気ぶんになりました。そしてみずがでなかったので、川に水をとりに行ったりしました。そしてまたひなんしました。そしてテレビを見たらばくはつしていたのでもうやだと思いました。このしんさいをとおして家や物はお金で買えるけど人の命はいくらお金があっても買えないということ命のたいせつさがよくわかりました。

142

東日本大震災の体験談と復興への…

氏名　長岡駿輝

四年前、二〇一一年三月十一日、東日本大震災がありました。ぼくは、そのころ小学三年生でした。

その後おこった津波で、永崎小学校や保育所が被害を受けました。幸いにも、学校の先生や生徒は無事でした。

しかし、福島第一原子力発電所で事故がおき、ぼくは、茨城県へひなんしました。もうやくもどれたと思いましたが、一年間、津波で被害を受けた永崎小にはもどれず、江名小の教室を借りて授業を受けました。

永崎小でも、いろんなことができなくなりました。その一つは、海に行くことです。永崎小は、海に行くことのある学校でしたが、海が汚染され、今も海に行けません。

震災のゆれとちがい、放射線は後に長く長く残ります。二度と、このようなことがおこらないように、もう一度よく考えておてください。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名

匿名希望

約4年前の2011年3月11日に東日本大震災が起きました。そのときはぼくは2年生でした。宿題をやっていると中にきゅうに地しんが起こりたななどの家具がいっきにおちたりしました。また大きな津なみも来ました。そのときはながさきにいたのでみんなで洋向台のぼくの家にひなんしました。

ぼくのいもうとと弟は、保育所にいたのでおばあちゃんたちは、ぼくの家についたあとにすぐその保育所にむかいに行きました。おばあちゃんたちが帰って来たあとのながさきは、もう津なみが来ていました。ぼくの家にお母さんも来ました。

津なみがおさまったあとはじしんのえいきようで水がとまっていました。

今ではもう津なみへの復興が進み水道もちゃんと出ています。

ぼくはもうこの体験をして地しんはもう起らないように願っています。

三年生

東日本大震災の体験談と復興への想い

匿名希望

ぼくは、しんさいのときに、けんばんの、しゅくだいをやろうとしていたら、じしんがきたので、すごくこわくて、しんせきの人たちがすごく心配でした。とくに、永崎に住んでいるおじいさんが心配でした。

海も近いから、だいじょうぶかなあと思いました。けれど、おじいさんが、すぐ、車で洋向台に来たので、よかったです。下神白のいとこもいました。まだ、赤ちゃんも、いたから、あぶなかったと思います。

ぼくは、小学校が、津波にあって、江名小学校にいくときに、友達もだいじょうぶかなあと思っていたら、家を流されてしまった人もいたので、かわいそうだなあと思いました。しんさいのときは、不安でした。もう二度としんさいは、おこらないでほしいと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　匿名希望

震災が起きた年はまだ私は2年生でした。私は、いつものように下校して家に帰ってきました。その日は家にだれもいませんでした。私が家についてからすぐ地面からものすごい音、うなりが聞こえました。私はこわくてこわくてたまらなくなりました。そしたらそのしゅんかんにすごい勢いで地面がゆれ、私はその場でたおれてしまいました。地しんが終わってからも水がでなくなったり何度かてい電していました。毎日私は、じえいたいの人たちから水をもらいました。地しんがあってからの一日は集会所で何時間か友達と地しんをたえながらのくりかえしでした。私は人生でもう二度とないことを体験してしまいました。100年に1度の大地しん。自分でもびっくりしました。しかしよく考えると100年に1度の体験って逆にすごいなと思いました。多の人の命をうばい多くの生き物の命をうばった東日本大しん災を私は、きっと、ぜったいにわすれられないです。

いわき市立永崎小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募作品

氏名 斉藤真帆

　東日本大震災の時、私は一年生だったけれど
楽しく遊んでいた時。でした。
その時、今までに体験のしたことのないゆれ
が私達をおそいました。　すぐ近くにいたとも、
っていたぞ。ぶいとりのぶたのすずに。こわ
かこだゆれでした。　おくだ、校にいて
ました。　そして、泣きながら家に帰ろうとす
るとろうかーとのポストの所から水があふれはじ
ていました。　一年生の時の私には、理解が
できませんでした。　この災い、津波が来ま
した。第一波、第二波、第三波とだんだんこ
わさに強くなってもらわが。だです。
　私は、東日本大震災を経験したので、今の
未来の子どもたちに経験を伝えていきたい
こと思います。

いわき市立永崎小学校　12 歳

「東日本大震災の[illegible]体験と[illegible]への想い」応募原稿　氏名 菊地 利花

私はあの日、いままで体験したことのない
ようなゆれにおそわれました。その出来事は
あの日3月11日のことでした。強いゆれがと
つぜんにきました。私は、ひっしに神様にお
願いしました。「どうかこのゆれをとめてく
ださい」と。ゆれがおさまるとテレビですさ
まじい映像がながれました。大きな大きな波
が家や建物をのみこんでいました。こわくて
こわくて手に汗がでてきました。被害はつな
みだけではありませんでした。原発事故ライ
フラインのひがいなどたくさんありました。
水がでないという事は、とてもたいへんなこ
となんだなとあらためてじっかんできました。
しんさいがあって、たくさんうしなう物はあ
たけど、家族の大切さ、水の大切さ、きずな
の大切さ、たくさんの大切があらためて感じ
られたと思います。しんさいから約4年がた
った今、しんさいでけいけんした「大切」を
みんなにつたえられたらいいです。

東日本大しん災

成島 梨子

　私は、しん災があったとき二年生でした。じしんがおこる前私たちは、連絡帳をかいていました。すると、とつぜんグラグラ、とゆれて、だんだんゆれが大きくなってきました。みんなは、すぐに机の下にもぐりこみました。みんなで外にひなんして私は、周りをみました。中には、泣いている人もいました、気分が悪くて保健の先生に見てもらっている人もいました。そして私も気づくと泣いていました。私はそのとき、家にいる母と妹のことがしんぱいでした。父が仕事でいなかったので母は大変だったと思います。

　私は　あんなに大きなじしんはもうおこらないでほしいです。だって、多くの人が死んで、多くの人が悲しくなるのはいやだからです。だから私は多くの人の命をむだにしてほしくありません。

いわき市立永崎小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 斉藤夢菜

　東日本大震災では、多くの人がつらい思いをしました。大きな津波がおそってきて大切なものがたくさん流されてなくなってしまいました。津波だけではなく交通や食べ物などの問題もありました。道路ではじゅうたいがおきたり、きん急車両も通れなくなるくらいでした。食べ物がお店からいっ気になくなってしまって困ったときもありました。私が住んでいる地域では水道やガスが通らなくなってしまい、とても不便でした。でも自衛隊の人たちが水を運んでくれたりしてとても助かりました。今でもとても感謝しています。

　このような大きな地震、津波などが起きても、すぐ対応するには、防災用品などをそなえておくのが一番いいと思います。今では、防災ビルなどを建てていて、そこにひなんするという人が多いと思いますが、そのようなものがない地域では事前にひなんする場所をきめておくことが大切だと思います。

飯舘村立飯樋小学校　12歳

150「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 齋藤さくら

　東日本大震災があったとき、私は家で宿題をやっていました。きゅうにゆれが大きくなって、びっくりしてあわてて机の下にもぐりました。ざわざわとさわいでいる人もいました。

　やっとゆれがおさまって机から顔を出したら、物がたおれていたり、花びんが落ちて割れていたりしました。

　家にもどって、てい電して暗くて、その日には、いとこの家へひなんしました。でも、私はこのときなにがおこっているのか全く分からなくて、原発がばく発したのもしりませんでした。一か月くらいひなんするのかなと思っていました。でもいとこの家から山形県へひなんして、またいとこの家に行き、そしてアパートでくらすことになりました。一年も二年もひなんしました。今ではほかのアパートにひっこして、犬も飼いました。犬の散歩をしたり、遊んだりして楽しいけど、てん校した友達もたくさんいます。早く帰りたいなと思います。

（20文字 × 20行）